

1. 単元名 作ってみよう！「おもちゃ工作レシピ」
2. 学習材 『「しかけ絵本」を作ろう』（教育出版 2年国語下）
『おもちゃのせつめい書を書こう』（教育出版 2年国語下）

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第1学年及び第2学年〕の「書くこと」と「読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

B 書くこと

内容 イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

言語活動例 イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。

C 読むこと

内容 ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

言語活動例 ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。

本単元では、『「しかけ絵本」を作ろう』で、教科書のおもちゃの作り方を説明する文章の特徴や構成を読み取り、そのよさを真似て、自分の紹介したい「おもちゃ工作レシピ」を書く。

これらの学習を通して、順序を捉えながら読み、説明文の特徴やそのよさについて気づかせ、読み取ったことを生かして、順序を考えながら分かりやすく説明する文章を書く力を身に付けたい。

そして、「おもちゃコーナー」を設けて、書き上げた「おもちゃ工作レシピ」を読みながら実際に友達におもちゃを作ってもらい、自分の「おもちゃ工作レシピ」通りにおもちゃが完成した喜びを通して、事柄の順序を考えながら書くことの有効性を実感させたい。

(2) 本単元で行う言語活動

本単元で行う言語活動は、『しかけ絵本を作ろう』で分かりやすい書き方の工夫を見付け、そのよさを生かして、自分が選んだおもちゃの「おもちゃ工作レシピ」を作るという言語活動を行う。これは、小学校学習指導要領「C 読むこと」における言語活動例の「ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動」を踏まえている。

「おもちゃ工作レシピ」とは、B4版の15マスの用紙を使い、①前書き②材料と道具③作り方④使い方の4つの構成と文に対応した図や写真からなる。子どもたちは、国語の学習における書く活動において、その都度マス目用紙を使って、一文字一文字丁寧に書くことを意識して取り組んできた。今回、相手にとってわかりやすい説明書を書くことから、このマス目用紙を使うことがふさわしいと考える。また、写真については、タブレットを用いて作業の工程を写真に撮る。文に対応した写真が文を書いた後にいつでも貼れるように、枠の外にはみ出すようにして写真をつける。

本単元では、子どもたちが教師が作成した「おもちゃ工作レシピ」のモデルに出会い、実際に作ってみたいという学習意欲を持たせ、「友達の『おもちゃ工作レシピ』を読んでおもちゃを作る」という単元のゴールを描かせる。そして、友達を読んでわかりやすい「おもちゃ工作レシピ」を書くために、学習材『「しかけ絵本」を作ろう』で書き方の工夫を学ぶ。さらに、学習材『おもちゃの説明書を書こう』で、『「しかけ絵本」を作ろう』を通して学んだ、順序を表す言葉や、箇条書き、番号のついた小見出し、写真などを使って「おもちゃ工作レシピ」を書く。友達が書いた「おもちゃ工作レシピ」を読んで作ることで、事柄の順序を考えながら書くことの有効性や、同じおもちゃでも、小見出しの書き方や、構成、説明の仕方が違うなどそれぞれの書き方の違いやよさに気付かせたい。

(3) 学習材について

本学習材は、「しかけ絵本」という、実際に子どもが作成することができる手作りおもちゃの作り方を説明する文章である。順序に従って読んでいけばおもちゃが完成するように、さまざまな工夫を施して書かれたテキストであるため、子どもたちが相手意識をもって、他者に伝わるように書くのに適した教材である。本文は、主に、「前書き」「材料と道具」「作り方」「使い方」の4点に整理され、特におもちゃの「作り方」を中心に述べられている。「作り方」では、箇条書きや、番号のついた小見出し、図、はじめに、次に、そしてといった順序を表す言葉などの叙述の工夫があり、時系列に沿って説明していくことのわかりやすさを読み手に感じさせることができる。また、作業について、簡潔にわかりやすく説明し、作る時に気を付けることなどについても書いてあることで、誰が読んでも作れるような書き方の説明文になっている。そして、説明文と対応して図や写真もあることから、文章だけではわかりにくいものも、写真が手助けとなり、写真の効果についても感じるすることができる。

『「しかけ絵本」を作ろう』を読みながらおもちゃを作ることを通して、分かりやすく説明することの大切さや、そのための書き方の工夫に気づくことができる。低学年における説明のしかたの基礎を学ぶことができる優れた学習材である。

そして、『おもちゃの説明書を書こう』では、これらの読み取ったことを生かして、相手意識をもって「おもちゃ工作レシピ」を書かせていきたい。

(4) 子どもの実態 (男子12名 女子11名 計23名)

本学級の子どもたちは、説明的文章については、1学期に『すみれとあり』で学習をしている。すみれが開花するまでの流れを事柄の順序に気を付けて読み、すみれとありの関係を意識しながら、本文の書き換えを行った。子どもたちは、「何が」「どうする」といった主語述語の関係、「まず」「そして」といった順序を表す言葉の意味や使い方を学習した。「何が」「どうする」は赤で囲み、順序を表す言葉は青で囲むことで、視覚的に捉えられるようにし、段落ごとに「何が」「どうする」を確認したことで、事柄の順序に気を付けながら少しずつ読み取りができるようになっていった。そして、本文の書き換えでは、何度も本文を読み返し、順序を表す言葉を理解しながら、書く力を身に付けてきた。

『「かんさつ発見カード」を書こう』の学習では、生活科の学習で育ててきた野菜について様子や発見したことを書く活動を行った。子どもたちは、野菜の大きさや、かたち、色などの気づいたことや、観察を通して発見したことなどを生活科の観察文をもとに文章を書くことができた。さらに、日々の日記や感想を書く活動では、自分の書きたいことや思ったことを書くことができる。多くの文を書くことについては抵抗がないようである。一方で、構成を意識して文を書く経験が少ないため、順序に気を付けて文を書くことに不慣れである。そこで今回は、クラスみんなで「おもちゃ工作レシピ」をつくる学習を行う。子どもたちの興味のあるおもちゃを題材にして、作る順番を意識しながら、順序を表す言葉を使って、「何を」「どうする」に気を付けて文を書いていき、わかりやすいおもちゃの説明書を目指し

ていく。友達に「おもちゃ工作レシピ」を読んでもらうために、正確に説明書を書かなくてはならない。そして、書き上げた「おもちゃ工作レシピ」をお互いに読み合い、おもちゃを作ることで、説明書のわかりやすさを感じ、書いてよかったという達成感や成就感を味わわせたい。

(5) 指導観

〔見出す〕

□本時（本単元等）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

①**「関心・意欲を高め主体的に学習に取り組ませるために、単元のゴールを示し学習の見通しをもたせる。」**

本単元の導入では、教師自作の「おもちゃ工作レシピ」を提示し、単元のゴールを描くとともに学習意欲を喚起する。そして、「おもちゃ工作レシピ」を書くためには、どんな学習が必要か子どもたちと一緒に考え、学習計画を立てることで、学習の見通しがもてるようにする。その中で、「友達のおもちゃ工作レシピを読んで、おもちゃを作る。」という単元のゴールを共有し、友達を読んでわかりやすい「おもちゃ工作レシピ」を書くことを目指していく。また、本単元では、生活科「作ってためして」の学習と関連させて進めていく。生活科の導入で提示したおもちゃが教師自作の「おもちゃ工作レシピ」をもとに作ったということ国語の授業の導入で紹介し、国語科の学習を進めていく。

〔自分で取り組む〕

□児童が自ら情報を収集し、調べることができるように、環境等を用意する。

②**「『しかけ絵本』を作ろう』を読んで、見つけたポイントをもとに、わかりやすい説明書を書かせる。」**

第二次で、「『しかけ絵本』を作ろう』を読み、実際に子どもたちだけで作ってみる。そして、どうして上手く作れたのか考え、教科書の説明文の書き方の工夫を見つけるという視点を持たせる。見つけたものをクラスで共有し、自分たちが「しかけ絵本」を上手く作れた理由を実感させる。そして、「『しかけ絵本』を作ろう』を読んで、見つけた書き方の工夫をいつでも振り返ることができるように、教室にそれらを掲示しておく。そして、自分が選んだおもちゃの「おもちゃ工作レシピ」を書く際に、掲示物を参考にしながら書き進めていくことができるようにする。

「おもちゃ工作レシピ」は、①前書き②材料と道具③作り方④遊び方の4つの内容から構成され、用紙の枠の外に写真がつけてある。文と対応して、写真が貼れるように、文章を書いた後に考えながら写真をつける。また、子どもたちは、「おもちゃ工作レシピ」を書くために、おもちゃの作り方が書いてある本を多読していく。そして、生活科の時間と関連させて、いろいろなおもちゃを作って試し、「おもちゃ工作レシピ」に書くおもちゃを選ばせていく。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。

③**「友達の『おもちゃ工作レシピ』を読んで、実際に作り、良かった点を伝え合わせる。」**

子どもたちが、「おもちゃ工作レシピ」を書いた後に、生活科「作ってためして」の学習で、実際に友達の「おもちゃ工作レシピ」を読んで作ってみる。作ることを通して、読み手にとって、わかりやすい説明ができたかの評価ができる。そして、交流の中で、おもちゃを作ったわかりやすかった点などよかったところを友達から伝えてもらうことで、作ってよかったという充実感や喜びを感じさせたい。また、同じおもちゃでも小見出しの書き方や、構成、説明の仕方などそれぞれの書き方の違いや良さに気付かせることで、様々な表現方法にも気付かせたい。

4. 単元の目標

【知識・技能】・・・㊦

○文のまとまりを意識して、順序を表す言葉を使って文を書くことができる。(1 (1) ア)

【思考・判断・表現】・・・㊦

○事柄の順序やおもちゃ作りの手順に沿って、説明書の構成を考えて書くことができる。(B (1) イ)

○説明書の構成や工夫を見つけ、内容の大体を捉えることができる。(C (1) ア)

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊦

○「おもちゃ工作レシピ」の学習の見通しをもって、粘り強く作成している。

5. 全体指導計画

次	時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）		
第一次	1	単元のゴールをつかみ、見通しをもつ。 ・教師自作の「おもちゃ工作レシピ」のモデルを読み、興味・関心をもつ。 ・学習計画を立てる。	○教師自作の「おもちゃ工作レシピ」を提示し、学習への見通しをもたせる。 ☆これからの学習に見通しをもち、学習への意欲を高めている。(㊦態度・発言)	おもちゃの説明書の並行読書	生活科 1, 2
第二次	2 3	『「しかけ絵本」を作ろう』を読んで、しかけ絵本を作る。 ・「「しかけ絵本」を作ろう』の本文を一人読みしながら、おもちゃを実際に作る。	○大切なことを読み落とさないように、本文を読みながら、しかけ絵本を作ることを心掛けさせる。 ○作るときに役立ったことを国語日記に書かせ、次時の書き方の工夫を探す活動に繋げる。 ☆「しかけ絵本を作ろう」の表現のよいところを見つけながら、自力読みすることができる。(㊦発言・ノート)		
第二次	4 本時	『「しかけ絵本」を作ろう』の書き方の工夫を見つける。 ・作ってみて、わかりやすかった文や、手がかりになった図や写真に線を引いたり、印をつけたりする。 ・線を引いた理由を書く。 ・本文を分析し、わかりやすい説明書には、どんな工夫があるか、それがもたらす効果について話し合う。	○前時で気付いた説明のよさを話し合うことで、わかりやすい説明の仕方に気付かせていく。 ☆『「しかけ絵本」を作ろう』から書き方の工夫を見つけて、順序よく読み取ることができている。(㊦発言・ノート)		
	5 6 7	「おもちゃ工作レシピ」を書く。 ・おもちゃを一つ選び、実際に作る。 ・『「しかけ絵本」を作ろう』で学んだ書き方を参考にして、書く。	○好きなおもちゃを選び、そのおもちゃについての説明を文に書く。 ○『「しかけ絵本」を作ろう』の書き方の工夫を参考にしなが、「おもちゃ工作レシピ」を書かせる。 ○構成表が必要な子どもには、構成表を使って、「おもちゃを工作レシピ」を書かせる。 ☆選んだおもちゃについての説明文を順序よく書いている。(㊦おもちゃ工作レシピ)		生活科 3, 4, 5
	8	書いた文章を読み返す。 ・書いた文章を声に出して読み返す。	○声に出して読み返し、わかりやすい文になっているか確認する。 ☆小見出しや順序を表す言葉を使いながら書いているかを確認しながら読み直している。(㊦態度・発言)		
	9	清書する。	○書き方の工夫を用いながら、まとめ方や順序を考えて「おもちゃ工作レシピ」		

			<p>を書いている。</p> <p>☆事柄の順序やおもちゃ作りの手順に沿って、「おもちゃ工作レシピ」の構成を考えて書くことができる。(愚おもちゃ工作レシピ)</p>		
第三次	10	<p>友達と、「おもちゃ工作レシピ」を交換して、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の「おもちゃ工作レシピ」をもとに、おもちゃを作る。 ・友達の「おもちゃ工作レシピ」を読んで、良かった点を伝える。 	<p>○分かりやすい「おもちゃ工作レシピ」ができたか、友達の「おもちゃ工作レシピ」を読んでどうだったか感想をもたせる。</p> <p>○自分とは違うおもちゃを作る友達に「おもちゃ工作レシピ」を読んで工作してもらうことで、相手に説明が伝わっているか自己評価させる。</p> <p>☆友達の書いた「おもちゃ工作レシピ」のわかりやすいポイントに気付いている。</p> <p>(◎発言・ノート)</p>		

第三次の後に、生活科の学習の6時間目以降を実施する。生活科『作ってためして』の全体指導計画を参照。

単元名 『作って ためして』(生活)

生活科の学習における、身近なものを利用して動くおもちゃを作る活動と関連させて、学習を進めていく。導入で、教師自作のおもちゃを見せ、「いろいろな動くおもちゃを作って遊ぶ」という活動の見通しをもたせる。そして、国語科の「おもちゃ工作レシピ」の提示へと繋げる。さらに、教師自作の「おもちゃ工作レシピ」をもとに、おもちゃを作らせて、作れた喜びや、面白さを実感させ、「おもちゃ工作レシピ」を書くことへの意欲を高めさせる。

時	主な学習活動	○教師の留意点
1	これまでの経験を想起し、動くおもちゃを作って遊ぶことを話題にする。	○教師見本のおもちゃを見せ、作ってみたいという意欲をもたせる。
2	輪ゴムなど身近にあるものでどんな遊びができるか予想し、皆で素材遊びを楽しむ。	○素材遊びをし、それらの材料でどんな遊びができるか予想し、おもちゃ作りへの見通しをもたせる。
3 4 5 6 7 8	身近にあるものを使って、自分が作りた いおもちゃを決めて、作る。	○素材遊びの経験や教科書、おもちゃの本を参考にしながら、おもちゃを作らせる。 ○教師自作の「おもちゃ工作レシピ」のおもちゃも作らせる。
9 10 11 12	自分のおもちゃや、友達のおもちゃで遊ぶ。	○「おもちゃコーナー」を設けて、クラスや学年の友達のおもちゃで遊べるようにする。
13	遊びを工夫し、友達と楽しく遊んだことを振り返る。	○おもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりしてどうだったか、振り返る。

6. 本時の指導（4 / 1 2）

（1）目標

「しかけ絵本を作ろう」を読んで、説明書の構成や書き方の工夫を見つけながら、順序よく読み取っていくことができる。（【思考力・判断力・表現力】）C（1）ア）

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の留意点 ☆評価（方法）
5	1. 前時の学習を振り返り、学習問題を確認する。 ◎どうして、「しかけ絵本」が上手にできたのかな。 ・文がわかりやすかった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 「しかけ絵本」を作ろうの書き方のくふうを見つけよう。 </div>	○前時の活動を想起させて、感想を話し合わせることで、『「しかけ絵本」を作ろう』の説明書の良さに気付かせ、本時の学習課題に繋げる。
1 5	2. 「しかけ絵本」を作った時にわかりやすかった文や、写真にサイドラインを引いたり、印をつけたりする。理由も書く。 〈予想される箇所〉 ・写真・数字・はじめに、つぎに、そして ・気を付けること・マーク・問いかけ ・やまおり・たにおり・のりしろ・記号 ・～たら、～する。	○「しかけ絵本」を作ってみて、わかりやすかった文や、どの文を手がかりに読んでいったのかを明確にしなが、サイドラインを引いたり、印をつけたりして根拠をもって説明できるようにする。 ○サイドラインを引いた理由を教科書の空いているところに書かせる。
2 0	3. 全体で話し合う。 ◎どんな「書き方の工夫」がありましたか。 ・写真があったからわかったよ。 ・順序を表す言葉を使っていたよ。 ・文が太字で書いてあってわかりやすいよ。 ・気を付けることが書いてあったよ。 ・数字があって、わかりやすかったよ。	○作ってみて、わかりやすかった文を発表させて、文の構成、文の書き方、文以外の工夫の項目ごとにまとめていく。 ○写真や図、小見出しや、順序を表す言葉を使っていること、読んだ人が同じものを作れるように、注意点を書いていることに気付かせる。
5	4. 国語日記を書く。 ◎今日の学習で、わかったことや、思ったことを書きましよう。 ・いろいろな書き方の工夫があった。 ・じゅんじょをあらわす言葉を見つけられた。	○学習内容を振り返り、活動を通して気付いたことや思ったことを国語日記に書かせる。 ☆説明書の構成や書き方の工夫を見つけながら、順序よく読み取ることができている。 (◎発言・ノート)

